スポーツ文化論第８回

駅　伝

箱根駅伝を中心に

1980年代以降、テレビ中継技術の発達とともに国内での駅伝人気は増す傾向にある。中でも、人気の高い毎年1月2日と3日の両日にかけて行われる東京箱根間往復大学駅伝競走(通称「箱根駅伝」)や、元日に行われる「全日本実業団駅伝」(ニューイヤー駅伝)が正月の催事として定着している。

その影響もあって、名前を売り込む、もしくは企業の宣伝のために陸上部(駅伝部)の強化に乗り出す大学・企 業も多い。大学では種々の問題点を生み出している。

駅伝とは

駅伝という言葉自体は、日本書紀に掲載されている大化の改新の詔の第2条に、駅馬・伝馬の制度を設置する旨の定めが見られるぐらい古いものである。この制度は、古代以来の中国の各王朝で設けられた駅制度を元にしたもので、首都と地方の間の道路網に30里(約16km)毎に置かれた中継所のことを「駅」(宿駅)といい、ここに宿泊施設や人、馬を配置していた。こうした制度は、後々に引き継がれ江戸時代に整備された五街道制度にも生かされている。

飛脚が、駅毎におり、駅から隣の駅までを走り(時には早馬を使うこともあった)、そこで次の飛脚にバトンタッチすることで、当時としては脅威のスピードで伝書などを渡していたのである。

公儀の飛脚である継飛脚(つぎびきゃく)は、書状・荷物を入れた「御状箱」を担ぎ、二人一組で宿駅ごとに引き継ぎながら運んだ。急を要する場合、江戸―京都間なら片道70時間ほどで運行できたと考えられている。

東海道五拾三次之内
藤枝

初めての駅伝

1917年(大正6年4月27日)、東京奠都50周年を記念して、読売新聞が主催する「東海道五十三次駅伝徒歩競走」が開催された。京都・三条大橋を午後2時にスタート。愛知県第一中学(現・愛知県立旭丘高等学校)で固めた西軍と東京高等師範学校(現筑波大学)中心の東軍が争い、京都から東京までの23区間、約508kmを走り抜き、東軍のアンカー金栗四三がゴール地点である東京上野・不忍池の博覧会正面玄関へ到着したのは翌々日・29日の午前11時34分であったという。この競走のスタート地点である京都・三条大橋のたもとと、ゴール地点である東京・上野不忍池の東岸には「駅伝発祥の地」の碑が立っている。

東海道
五拾三次
大尾
京師

東都三条大橋「駅伝発祥の碑」
駅伝の歴史ここに始まる

駅伝の歴史ここに始まる
駅伝の碑

関西組は名古屋の愛知第一中学が中心。中学2年から5年までの生徒が大半で、あとは卒業、職員たちが名を連ね、15歳の生徒から52歳の校長までが 走った。中学生と高校・大学生の争い。最終成績では関東組が１時間24分ほど先んじた。この駅伝が評判となり、3年後の1920(大正９)年、第１回東京箱根間往復大学駅伝競走の開催へと繋がってゆく。

次の絵葉書は、駅伝の名称ではないが偶然にも同じ1917年の奈良五條高等女学校(現県立五條高等学校)の金剛山登山４哩リレー競技会のスタート風景。

女子生徒の出で立ちが着物で，履いているものが草鞋とすさまじくこれで山道を16kmリレーするのは大変だ。

手にしているのが襷でもバトンの筒でもなく円形のリングで競技の歴史を知るにもよい資料だ。

五條高等女學校金剛登山四哩マラソン競技會 選手のスタート（大正六年十月二十七日）

1917年

箱根駅伝の誕生

（東京箱根間往復大学駅伝競走）

金栗四三(かなぐり しそう、1891年-1983年)は、日本のマラソン選手、師範学校教師、熊本県初代教育委員長である。箱根駅伝の開催に尽力し、日本に高地トレーニングを導入するなど日本マラソン界の発展に大きく寄与し、日本での「マラソンの父」と称される。

オリンピックにおける記録

- 第5回　ストックホルム大会（1912年）
  最下位(54年8ヶ月6日5時間32分20秒3)
- 第7回　アントワープ大会（1920年）
  16位(2時間48分45秒4)
- 第8回　パリ大会（1924）　- 途中棄権

プラカードを持っているのが金栗

1967年3月、スウェーデンの オリンピック委員会から、ストックホルムオリンピック開催55周年を記念する式典に招待される。ストックホルムオリンピックでは棄権の意思がオリンピック委員会に伝わっておらず、「競技中に失踪し行方不明」として扱われていた。記念式典の開催に当たって当時の記録を調べていたオリンピック委員会がこれに気付き、金栗を記念式典でゴールさせることにしたのである。招待を受けた金栗はストックホルムへ赴き、競技場をゆっくりと走って、場内に用意されたゴールテープを切った。

この時、「日本の金栗、ただいまゴールイン。タイム、54年と8ヶ月6日5時間32分20秒3、これをもって第５回ストックホルムオリン ピック大会の全日程を終了します」とアナウンスされた。

金栗はゴール後のスピーチで「長い道のりでした。この間に孫が５人できました」とコメントした。

54年8ヶ月6日5時間32分20秒3
でのマラソンゴール

金栗はオリンピックでの悔しさと、 世界に通用するランナーを育成したいとの思いがあった。それには大会が必要だろうと考えていた。

箱根駅伝が始まる前年の1919年に金栗をはじめ、東京高師教授の野口源三郎と第1回大会に走ることになる明治大学の沢田栄一の三人の陸上関係者で、何か大きなことをやってやろうという話が持ち上がった。当時、アメリカ大陸を横断した人はアメリカ人でもいない。日本の学生だけでリレーチームをつくってアメリカ大陸を横断して、世界をびっくりさせてやろうという途方もない計画を立てて、その代表選手を選考する予選会として、箱根駅伝が考えられた。

アメリカ横断レースは諸事情によって中止となったが、「東海道駅伝」の成功に意を強くした金栗らは、大学や師範学校、専門学校に箱根駅伝創設の意義を説いて参加を呼びかけ、早大、慶大、明大、東京高師（現筑波大）の四校が応じた。第1回大会が「四大校駅伝競走」の名称で行われたのは、こうした事情による。

1920年２月14日午後1時に有楽町の報知新聞前をスタート(学生のための大会ということで、午前中は勉強時間に充てるとして、午後1時から行われた)。1位の明治が闇夜の中を箱根町青年団が灯す松明を頼りに箱根に着いたのは、8時半を過ぎていた。

箱根駅伝小史

第１回〜第10回

〈第1回〉大正9年(1920)

早，慶，明，高師4校の出場。ゴール目前で明治をかわして優勝した東京高師チーム。

〈第2回〉大正10年(1921)

法政，中大，農大が加わり7校の出場。2回と3回は日比谷公園野外音楽堂前が発着点であった。優勝は明治。

〈第3回〉大正11年(1922)

前回から出場の河野一郎，謙三兄弟が，このときそろって区間1位の健闘，早稲田の優勝に貢献した。アンカー行田重治。参加10校。

〈第4回〉大正12年(1923)

1区川崎付近の接戦。右から農大・辻，法政・渡辺，慶応・清水，明治・須永。早稲田が2連勝。

〈第6回〉大正14年(1925)

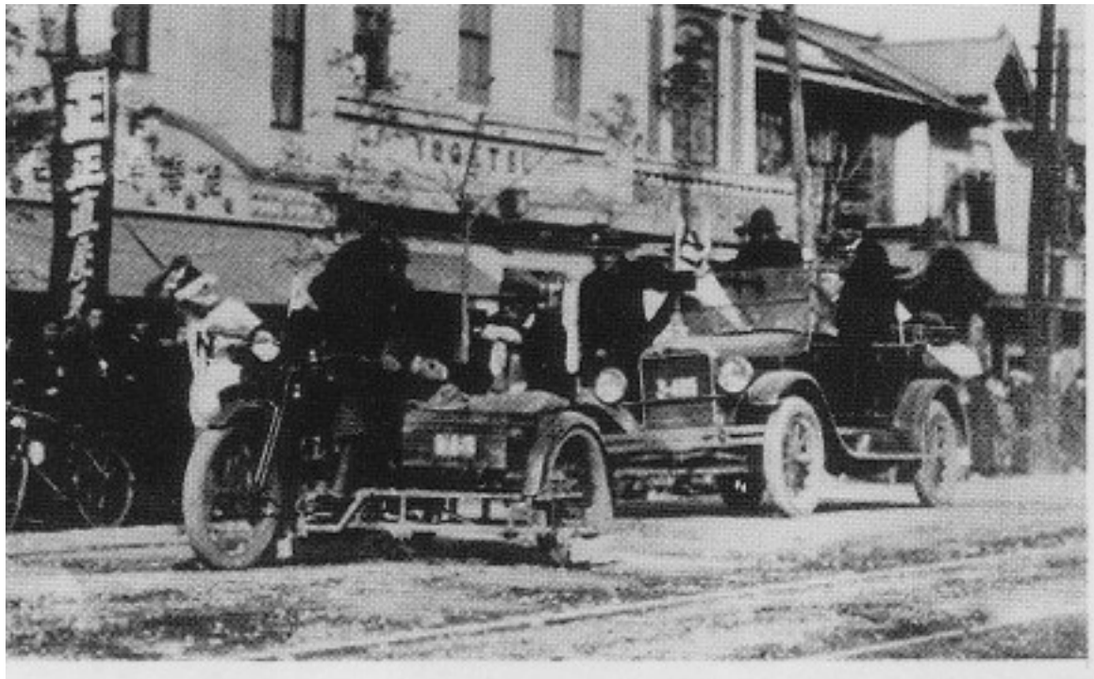
芦ノ湖を背に砂利道を力走する明治の6区江俣広(右)，伴走は前日5区を走った八島健三。明治は7区でトップに立ち2連勝。

〈第7回〉大正15年(1926)

早稲田，高師の不参加で出場7校。明治のアンカー永谷寿一が中大の湯本幸一を大森で逆転したが，日比谷で抜き返され中大の初優勝。

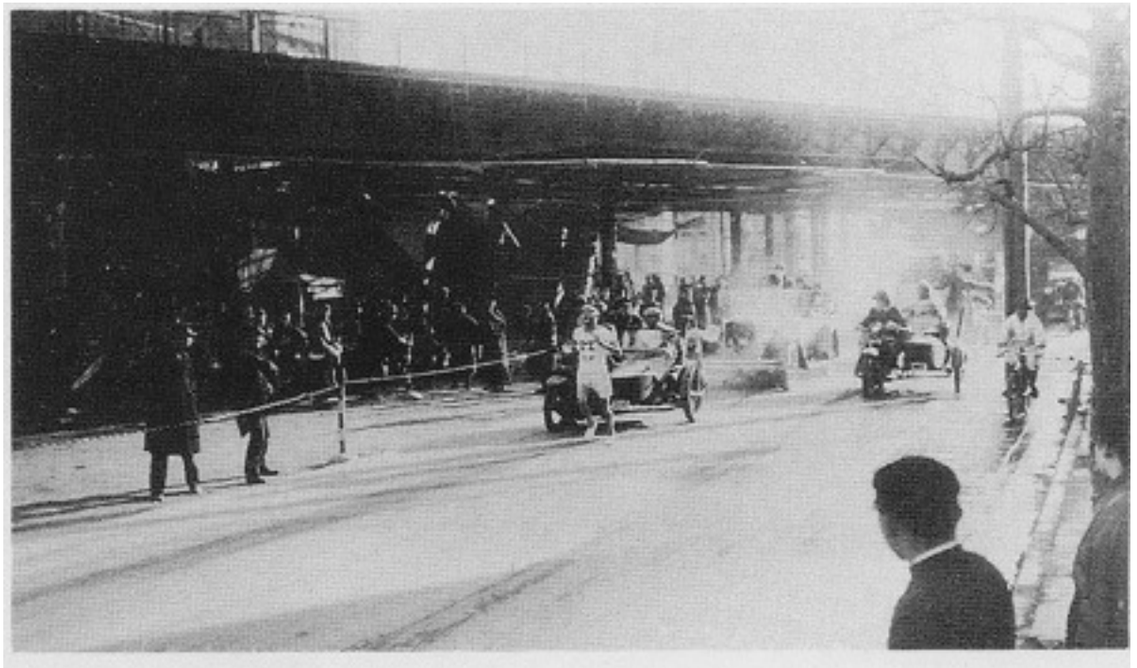
〈第8回〉昭和2年(1927)

12月25日に大正天皇御逝去。喪に服して4月に開催。1区大森での早稲田・本野，日大・野口の接戦。2区から先頭の早稲田が優勝。



〈第9回〉昭和3年(1928)

関大特別参加で9位。明治が2区から首位に立ち圧勝。小田原御幸町を力走する日大4区曽根茂，なかなかタスキがはずせず焦る。



〈第10回〉昭和4年(1929)

明治のアンカー権泰夏が新橋のガードを越えてゴールを目ざす。初の13時間台で2連勝，5度目の優勝をとげた。

第13回大会

(昭和7年1月9，10日)1932年

1943年(昭和18年)：戦時中により従来の東京-箱根間大学駅伝に代わり靖国神社-箱根神社間往復関東学徒鍛錬継走大会を第22回大会として実施。

1944年(昭和19年)：戦況激化により再び箱根駅伝は以後3年間中断。

1947年(昭和22年)：駅伝大会を復活し、第23回大会として開催。神奈川師範学校が初出場。読売新聞社が共催に入るが「学生の大会を私企業が催すことは好ましくない」とのGHQからの指導があり、後援となる。

1953年(昭和28年)：NHKラジオによる放送開始。

1987年(昭和52年)：NTVにより完全TV中継開始。

〈第22回大会〉昭和18年（1943）

東海道を締め出され昭和16年に２回東京青梅間往復駅伝を挙行。17年は中止。翌18年，関東学連関係者の情熱と努力により靖国神社―箱根神社往復で敢行した。往路１位の慶応５区岡博治のゴール。10区の逆転で日大優勝。このあと昭和19，20，21年は中止。

関東学生陸上競技連盟が主催

1956年から現在の1月２・３日開催

1987年からTV完全中継実施

鉄道会社の協力

1988年(第64回)の復路の中継で選手が箱根登山鉄道の踏切を渡る前に遮断機が下り始め、移動中継車が踏切の手前で立ち往生する間に選手が遮断機を潜り抜け、後から移動中継車がなかなか追いつけなかったというハプニングがあった。当時は駅伝の状況に関わらず、鉄道の運行を優先するルールとなっていた。こうした選手たちの遮断機の潜り抜けが危険なことから、箱根登山鉄道は2000年ごろより電車とランナーが交錯しそうなときは、電車を踏み切り近くで止め、ランナーを優先している。

蒲田の踏切では、京急が運行時間を調整していた。

京急線蒲田の踏切

箱根登山鉄道は止まる

応援風景

〈第15回〉昭和9年(1934)

大応援団の声援に励まされ道行寺の坂をのぼる早稲田の8区渋谷松夫。早稲田7回目の優勝。

▼トラックに溢れんばかりの応援団を従えて明治のアンカー田中久夫は栄光のゴールをめざす。

〈第13回〉昭和7年(1932)

慶応のアンカー北本正路が六郷橋で早稲田，芝増上寺山門前で日大を抜き，みごと初優勝を飾った。

◀路面電車の線路上を応援団員満載のトラックが行く。先行の中大を必死に追う明治の4区樽木茂，5区山口寿治。画面から声援のアラシが聞こえてくる。

▼4区の酒匂橋を渡る明治の樽木茂と大応援団。小田原中継所には3位で到着した。

第34回

▼戸塚中継所をとび立した専修９区の池田敏彦。この頃から応援団はバスを利用するようになる。

第64回

▼湯本温泉街では芸者衆もさかんに声援を送る。

スタート風景

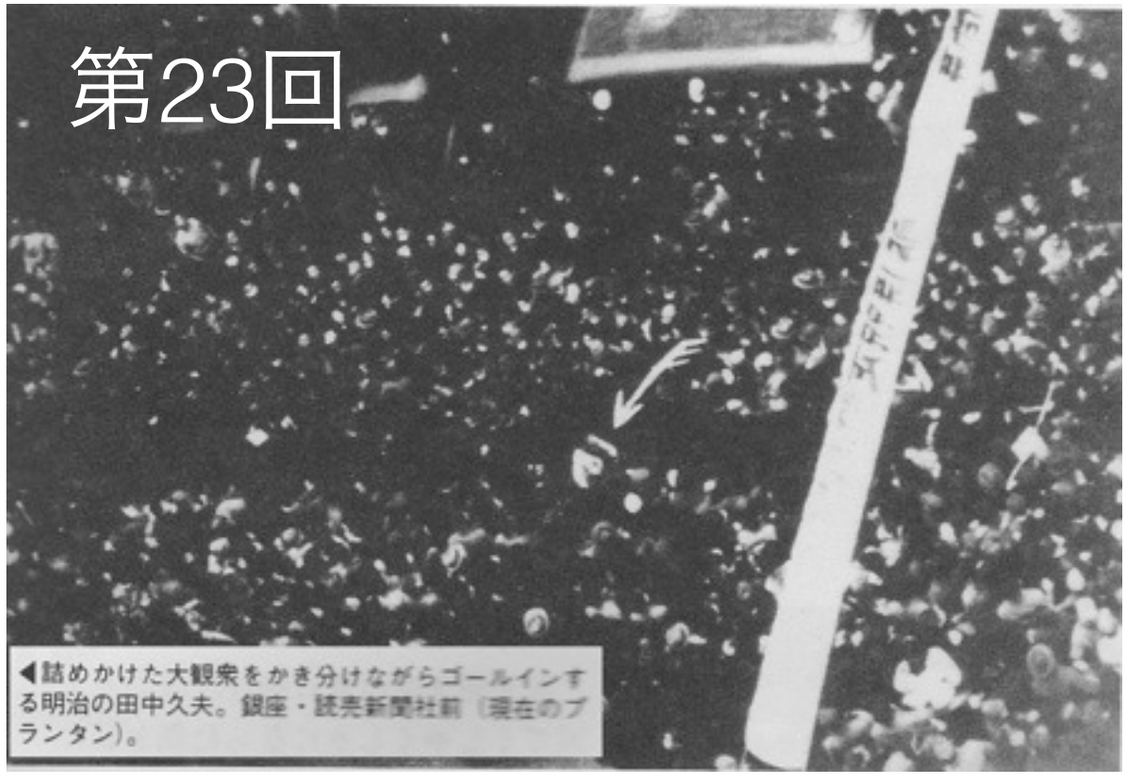
▼朝もやの中、読売新聞社前をスタートする参加12校の第一走者。

〈第35回大会〉昭和34年（1959）

残雪を踏みしめて疾走する16校の第１走者。中大の栗原正親（左端）がトップに立ち８回目のＶゴールにつなげた。

ゴール風景

▲慶応のアンカー竹中正一郎は驚異的区間新で6位から3位へ浮上した。



◀詰めかけた大観衆をかき分けながらゴールインする明治の田中久夫。銀座・読売新聞社前（現在のプランタン）。

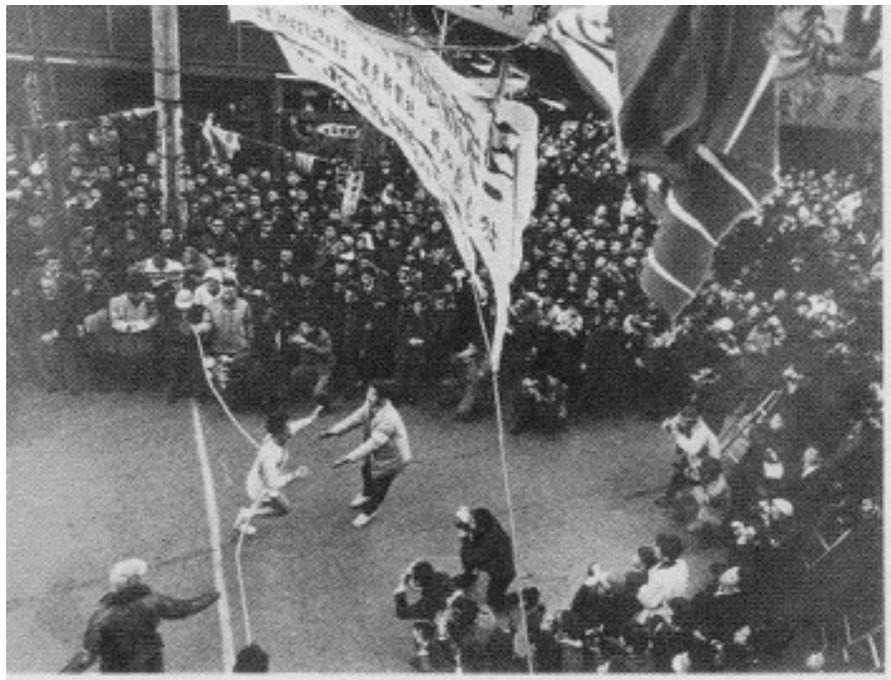
〈第24回大会〉昭和23年（1948）

中大が２位日大に33分の大差をつけて完全優勝。アンカー平井文夫（現姓西内）が大観衆をかき分けてゴールへ進む。

〈第28回大会〉昭和27年（1952）

中大は８区のブレーキで３連勝ならず，その８区で首位に立った早稲田が戦後初優勝。アンカー水野勝に紙吹雪舞う。

◀大観衆でごったがえす読売新聞社前ゴールにトップで入る日大アンカー内川義幸。戦後初、16年ぶりの優勝。



〈第38回大会〉昭和37年（1962）

中大４連勝のゴールイン。アンカー横溝三郎。１区猿渡で先頭に立ち，ゴールまで楽々首位を守った圧倒的勝利。

〈第50回大会〉昭和49年（1974）

記念大会で20校出場。日大が日体大の６連覇を阻止して12回目の優勝。農大が２区服部誠の12人抜きを足場にみごと往路優勝。５区壱岐利美のゴール。

〈第60回大会〉昭和59年（1984）

２区で首位に立った早稲田がトップを死守して実に30年振りの優勝を果たした。アンカー遠藤司が区間新の快走でゴールイン。記念大会で20校出場。

〈第63回大会〉昭和62年（1987）

順大得意の逆転劇は６区仲村で開始。７区山田，８区松田で射程圏内にとらえ，９区横道でついに日体大を逆転，アンカー工藤康弘が逃げ切った。６回目の勝利。

伴走車

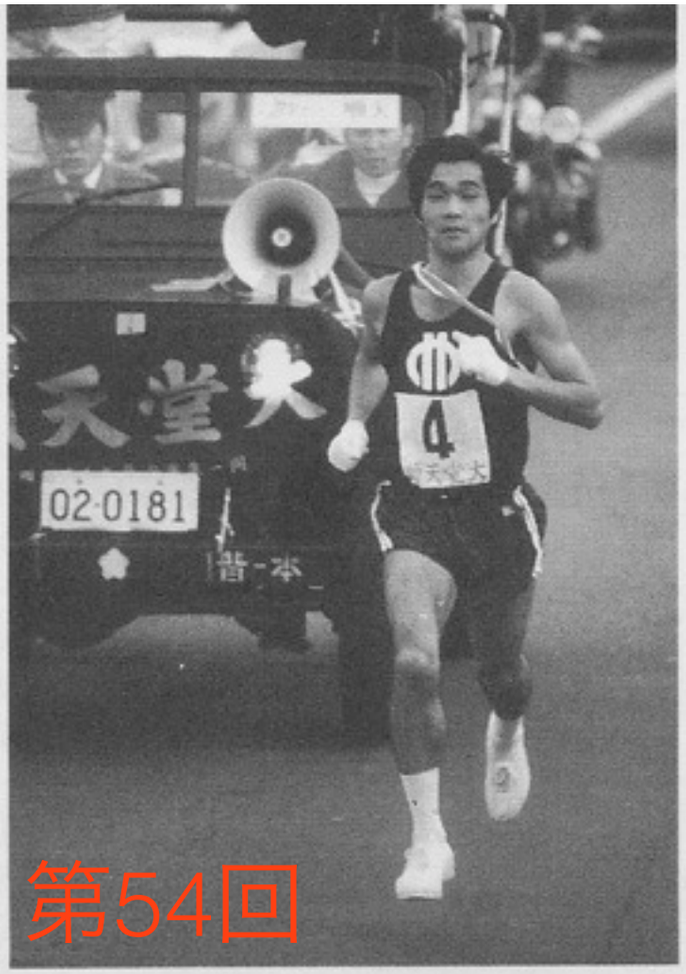
1937年第18回

軍用サイドカー

1949年第25回

1954年第30回

▲8区で接戦を演じる専修山下嘉則(右)と農大秋山勉。



▲順大の4区田中登は先行の日大を抜いてトップを奪う。区間1位。

1959年(昭和34年)第35回大会頃

運営管理車(伴走用)に

ジープが使用される

第49回から自衛隊ジープ

自衛隊は演習として実施

1980年代から交通事情が悪化し、警察庁の指導もあって平成元年(1989)年第65回大会から伴走車が禁止。

その後は各チームの監督、コーチが3台の「監察車」に分乗する形式に変更。しかし、途中棄権などのアクシデントが相次いだことから、2003年第79回大会から１チームに１台の車の随行が再び認められ、選手の体調急変に対応するシステムとなった。

2003年まで三菱自動車が運営車両を提供。
2004年から2010年まではホンダが運営車両を提供。燃料電池自動車の公道走行試験の為、同社のFCXおよび後継車種のFCXクラリティが先導車・大会本部車に起用された。但しホンダはトラック・バスを製造していない為、同時期に、トヨタも報道カメラ車としてハイブリッド・ディーゼルトラックを提供。
2011年からトヨタが運営車両全て(全車両ハイブリッドカー)を提供しており、両社のハイブリッドカーPR競争激化にも繋がっている。

各大学の襷を掛けている

テレビ放送

1986年秋の首相官邸(中曽根康弘)での「スポーツ関係者との交流会」で順天堂大学の沢木啓祐さんが、来年箱根がTVで完全放送される、と嬉しそうに話してくれた。選手には、「襷を渡した後に倒れ込むな」と伝えそうである。

TVはドラマを見せるのか、ドラマに仕立てているのか？

従来はテレビ東京によるゴールのみの放送だったのが、1987年から日本テレビによる全国ネットでの完全生中継が始まった。

それ以降、大学側の宣伝・PR的な側面が見え始め、結果的に勝負至上主義的な駅伝競走となっていった。その結果、色々な弊害を見せ始めた。

まずPRの目的で、ユニフォームを変更する大学が出てきた。戦前から出場している伝統校は、胸にアルファベット1文字などのユニフォー ムが多い(早稲田大学の「W」、中央大学の「C」など)。しかし、新興大学は頭文字ではアピール出来ないために大学名を漢字で記載するケースが多くなった。また、テレビによる中継開始後に初出場を果たした大学は、色合いが派手なユニフォームを着用する傾向に。

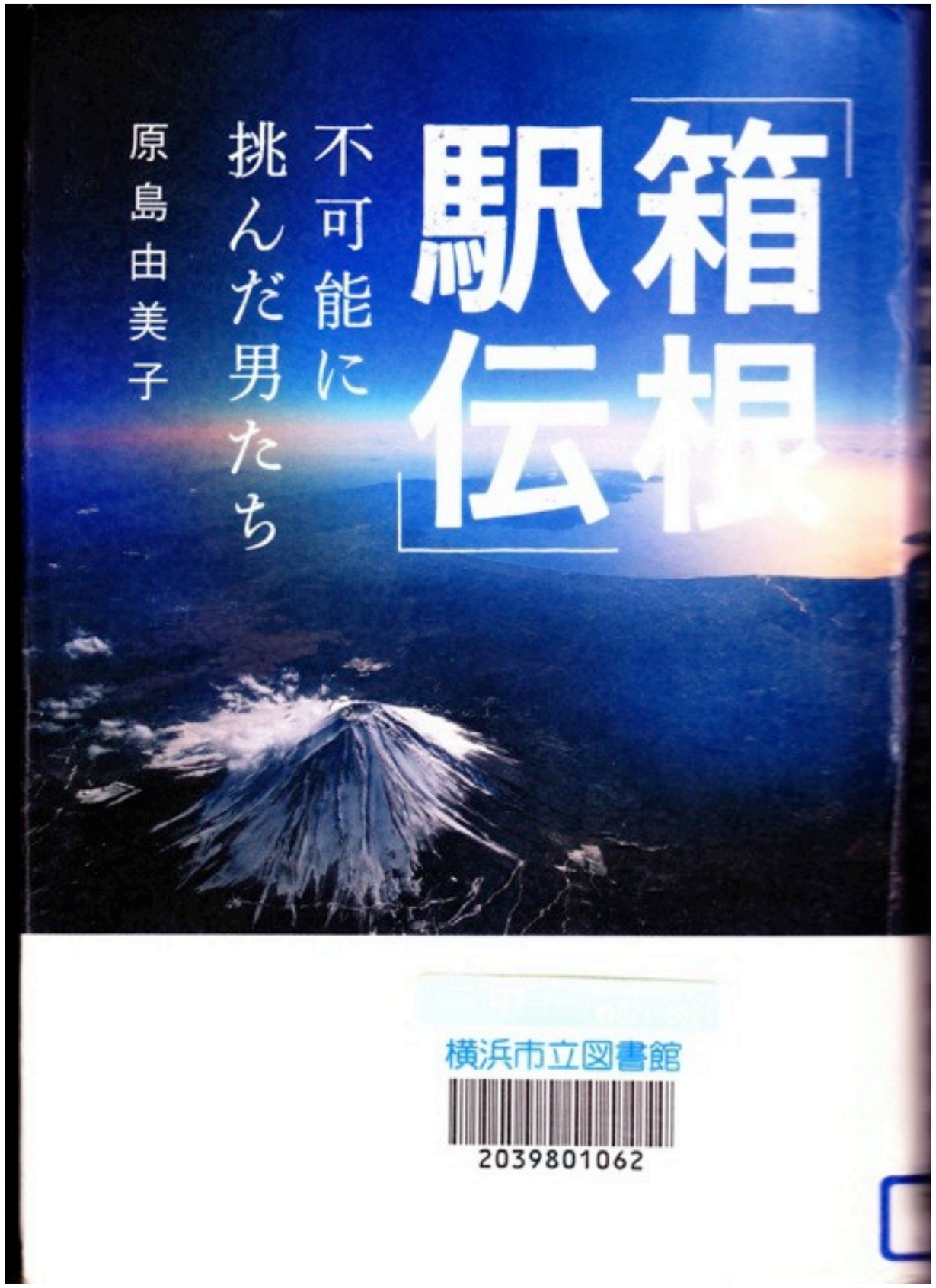
箱根駅伝
3
HAKONE
EKIDEN
SAPPORO
法大
18-1
神奈川大
16-11
早大
駒大
20-1
東洋大
12-12

もともと山岳部の地理的条件などから箱根駅伝の中継は不可能と思われており、他にも、長時間の中継ではたして視聴者が番組を観るのか、たかが関東の大会でスポンサーが付くのか、など多数の難題を抱えながらも番組成立にこぎつけた。

当放送の後枠は14時10分キックオフの高校サッカーであり、こちらもファンの多い番組であるため、放送時間の延長はこれまで行われていない。

1987年1月2･３日は総放送時間7時間50分、移動中継車３台含む中継車16台、中継ポイント34カ所、ヘリ２機、クレーンカメラ９台、カメラ61台など。アナウンサー計11人。スタッフは制作200名、技術410名。視聴率は常時20％前後。翌年から完全中継となり、毎年25％前後を稼ぐ人気番組に。

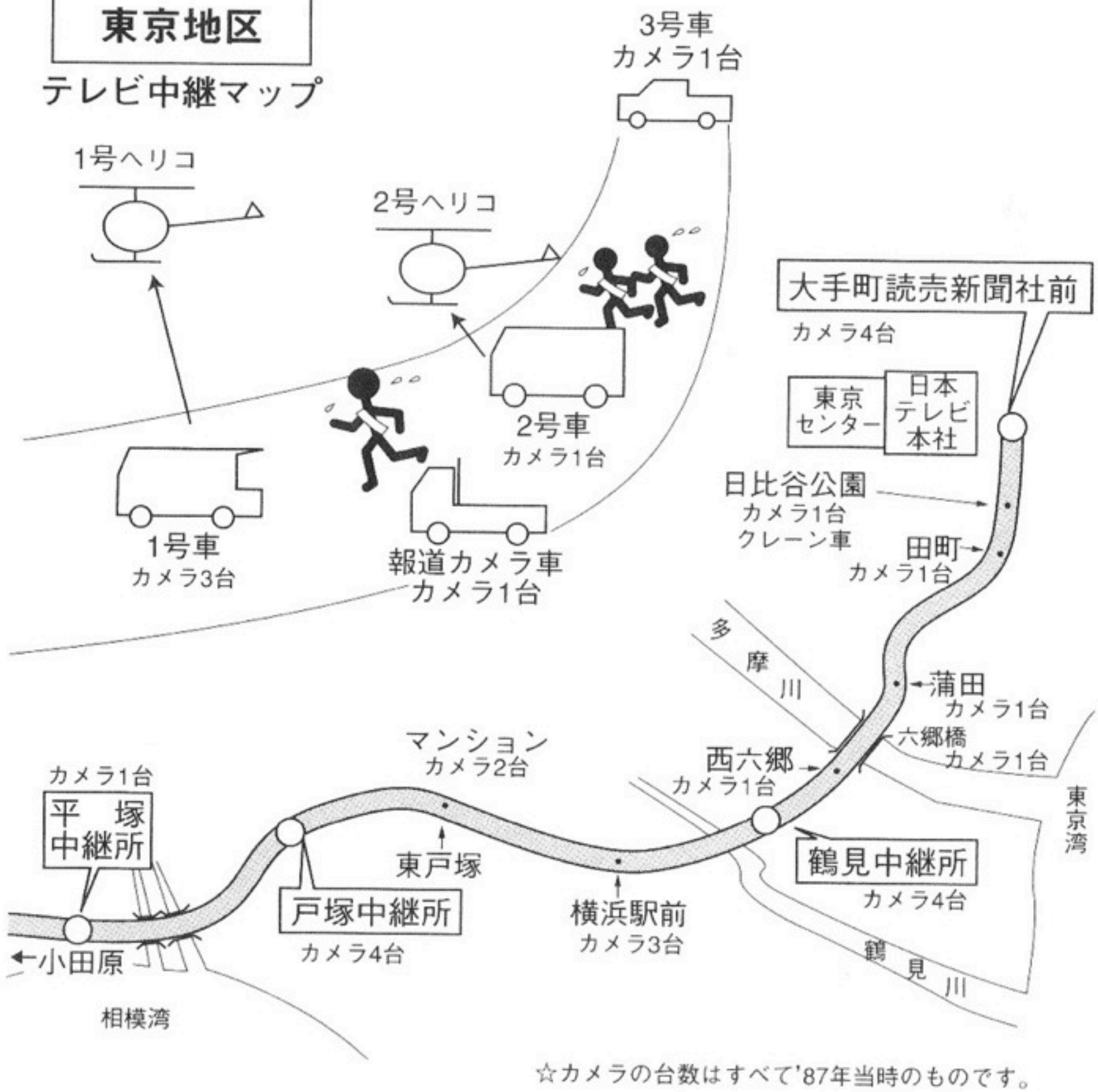
企画し、担当した坂田ディレクターは「TVが箱根を変えてはいけない」という観点で中継した。しかし、民放故か、スポーツのウェットな部分やドラマ性を強調することで、TV中継によって結果として箱根が変わりつつあるというのが現状。



横浜市立図書館
2039801062

東京地区

テレビ中継マップ

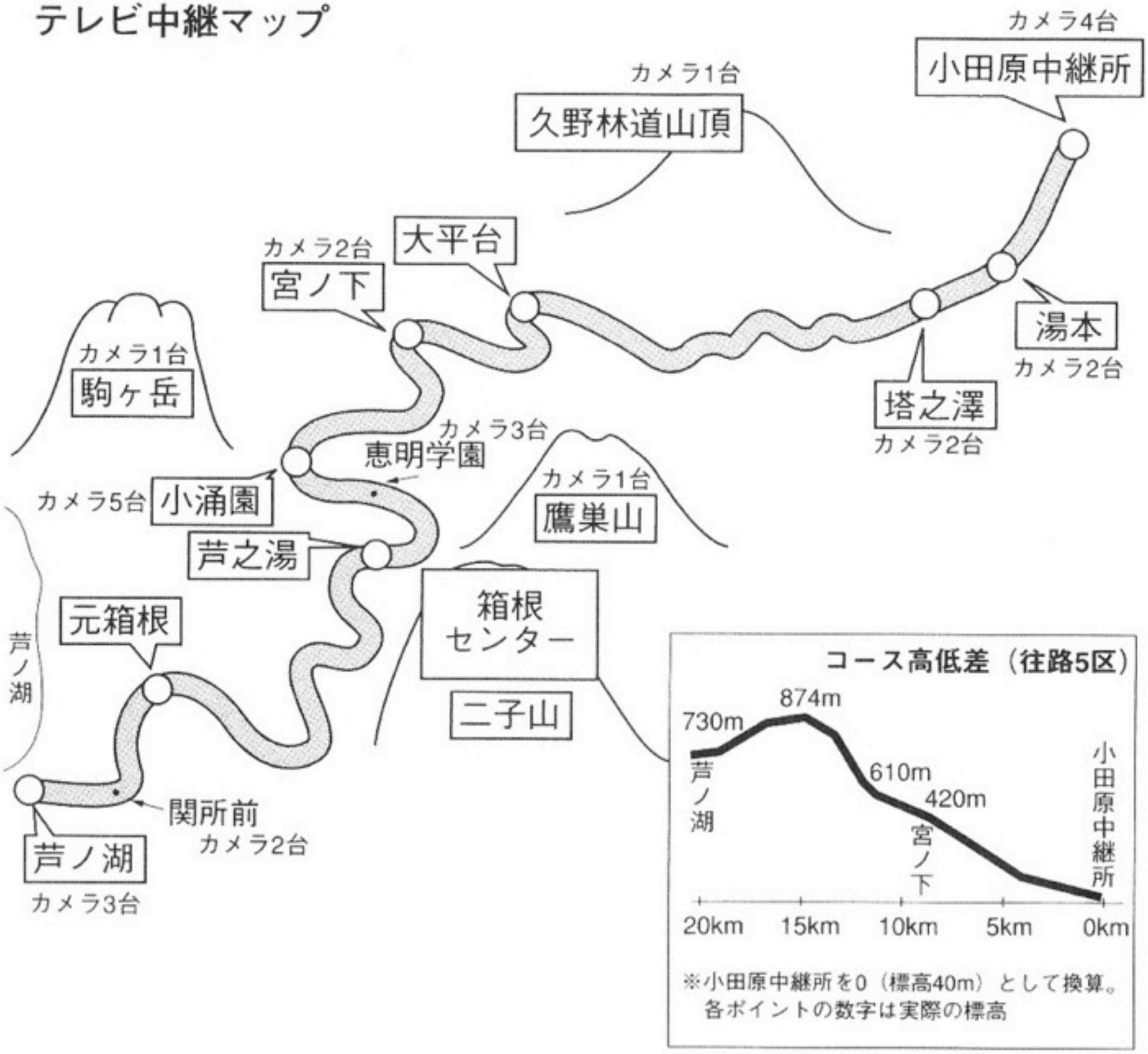


☆カメラの台数はすべて'87年当時のものです。

箱根地区

テレビ中継マップ

☆カメラの台数はすべて'87年当時のものです。



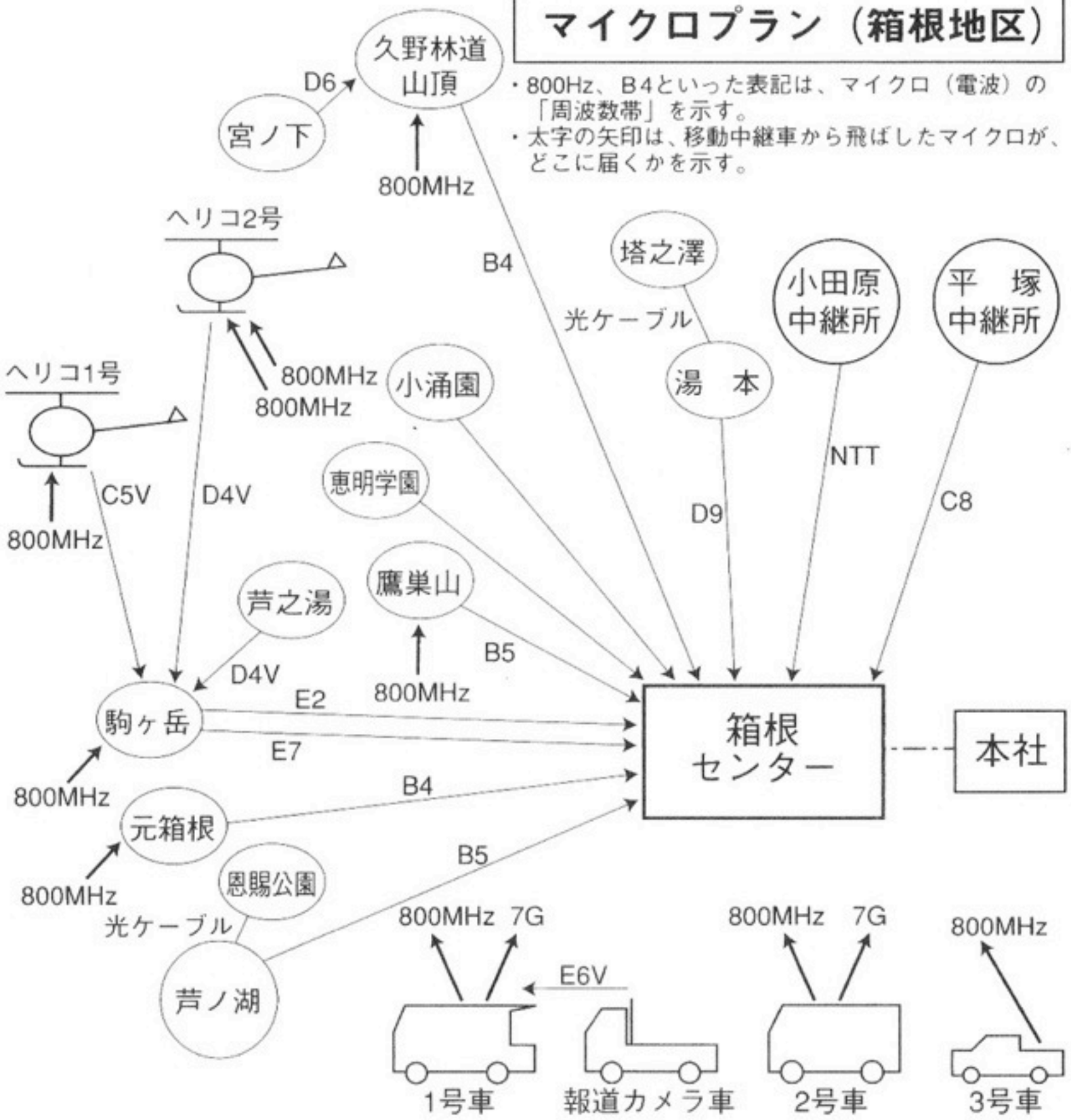
何十キロもある荷物を背負い、
久野林道を歩いているスタッフたち。
山頂まであと一時間はかかる

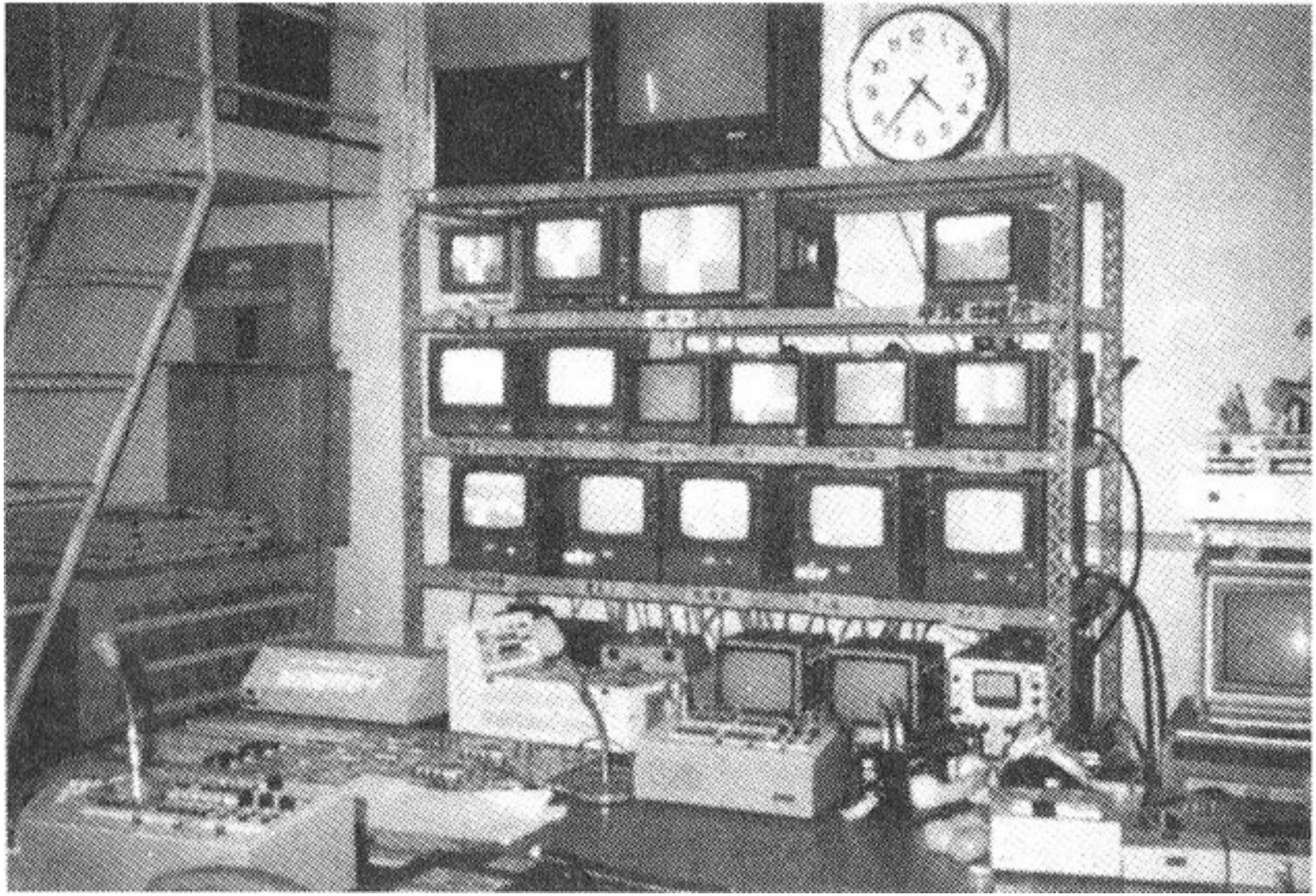
今はヘリで運搬

久野林道山頂からの撮影や
マイクロ送受信の準備をしている
日テレのスタッフたち

マイクロプラン（箱根地区）

・800Hz、B4といった表記は、マイクロ（電波）の「周波数帯」を示す。
・太字の矢印は、移動中継車から飛ばしたマイクロが、どこに届くかを示す。

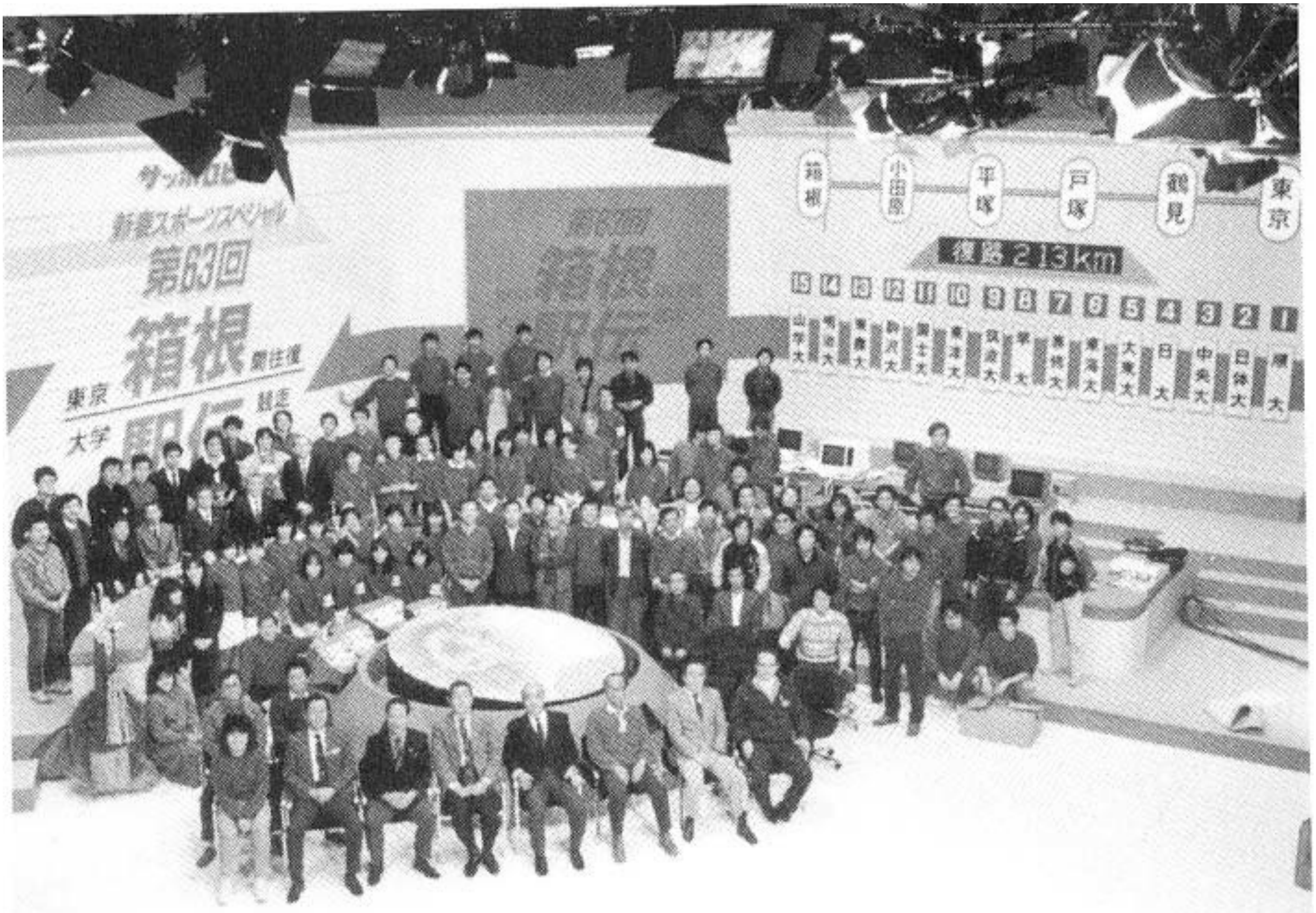




中継機材が並ぶ「箱根センター」

中継がスタート、1区を走る選手たちとそれを映す移動中継1号車。中にアナウンサーと解説者が乗っている

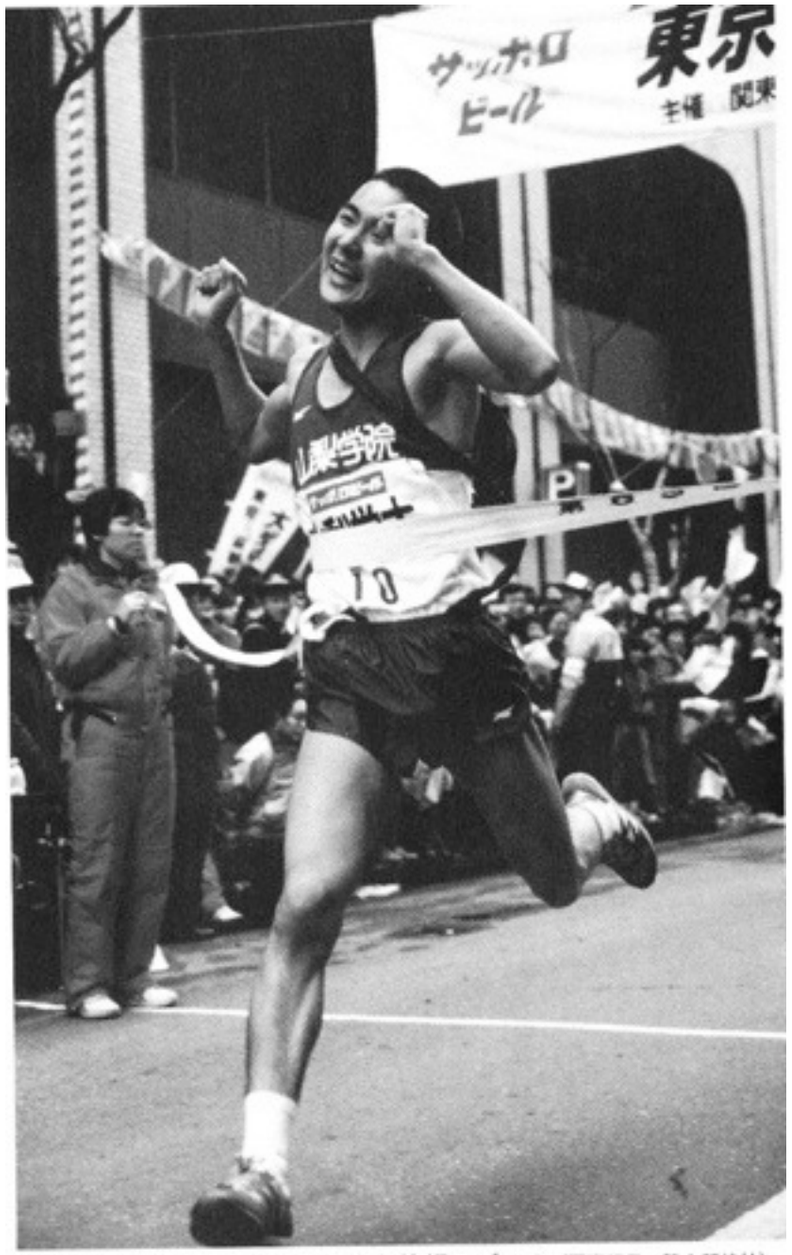
市街地を走る選手を映す２号車



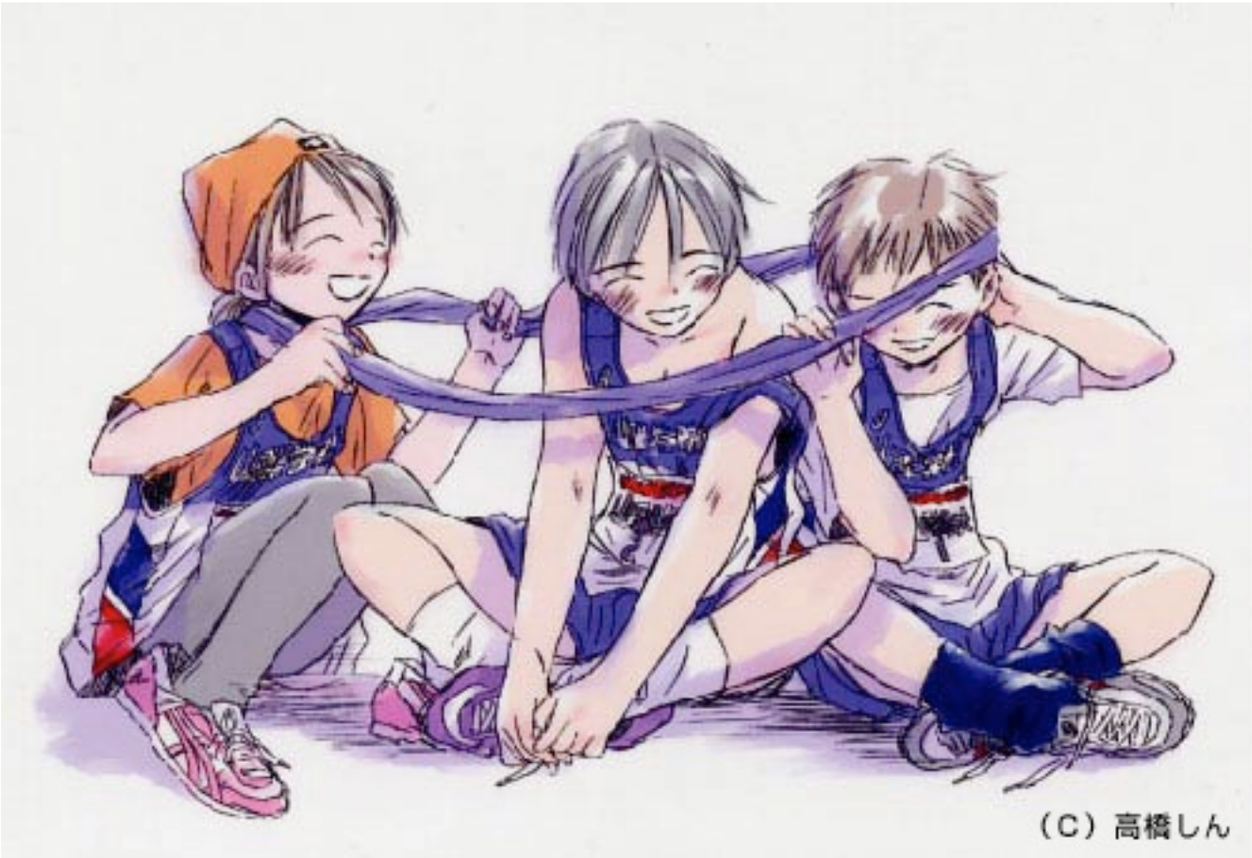
番組終了直後にスタジオで撮影した、中継に携わったスタッフたち

タスキが西口から高橋の手に渡された瞬間

この年に登場
した山梨学院
大学の漫画家
高橋しん



山梨学院大・高橋真のさわやかな笑顔のゴール（写真提供・陸上競技社）



箱根駅伝は全員が
ゴールテープをきれる

箱根駅伝（第64回・1988年）第２区　順天堂大学と大東文化大学の首位争い

The007JBOY　チャンネル登録　1 本の動画

09:09 / 10:05

グッド！　追加　共有　15,877

HAKONE EKIDEN

SINCE 1920

©NTV

箱根駅伝（第64回・1988年）第２区　順天堂大学と大東文化大学の首位争い

The007JBOY　チャンネル登録　1 本の動画

07:32 / 10:05

グッド！　追加　共有　15,877

TV中継で場所を伝える際は基本的に地名や公共施設しか紹介しないが、例外として「小涌園」がある。これは前述の完全生中継に伴う、中継拠点設置の際に日本テレビが中継スタッフの宿泊予約を箱根の各旅館に打診したが、打診が前年の6月なのにも関わらず、宿泊日が年末年始という事もあり、満室で断られた。しかし、小涌園から「宴会場なら貸せる」との申し出があり、日本テレビ側もその条件で同意した。宴会場なので、布団や食事は自前ではあったが、暖房と温泉は利用できた。その為、感謝の意味を込めた名残で現在でも必ず番組内で紹介されている。

実況中継で用いる出場校紹介の際の冠としては、概ね以下のような基準の傾向がある。

- 伝統校：
  第二次世界大戦前から出場している大学
- 名門校：
  総合優勝を果たしたことのある大学
- 古　豪：
  片道だけでも優勝したことのある大学
- 常連校：30回以上出場している大学
- 新鋭校：出場回数30回以下の大学

1987年(第63回)の初放送が成功に終わったことで他テレビ局の中でも焦りと同時に賞賛の声が上がり、駅伝中継への機運が高まった。特にTBSは、その翌年(1988年)から毎年1月1日に行われる全日本実業団対抗駅伝競走大会(ニューイヤー駅伝)の完全生放送を開始することとなった。

2008年(第84回)には中継地点53カ所、テレビカメラ83台、移動中継車3台、オートバイ中継車2台、固定中継車13台、ヘリコプター3機、実況とサブアナウンサー20名、スタッフ総勢950名という日本のテレビ局におけるスポーツ中継としては最大規模の体制で行っている。

箱根駅伝の経済効果

出場する大学にもたらす効果

2009年に優勝した東洋大学では、志望者数は前年より1万人増えて6万9000人。10年は4000人増の7万3000人が受験。受験料だけで1億4000万～3億5000万円も増えた計算になる。

優勝した大学の広告効果は60億円という試算もあり、大学の生き残り、ブランド戦略において、とても大きな役割を担っている。

試験の出願締め切りの直前という最高のタイミングで、往復11時間に渡って学校名が連呼されるため、宣伝効果は絶大。

企業と箱根駅伝の関係性

平均視聴率は20～30％というお化け番組になり、サッポロビールのスポンサー料は10億円を下らないと言われる。

ミズノが特別協賛または協賛を行い、お金と物品提供を行っている。1千万単位とされていて、テレビスポット料を加えると金額負担は大きい。

箱根地区のホテルは、早々に満室になり、あるホテルではレースが終わった直後に翌年のお正月分が満室になる。

選手の経済効果

監督たちは有望な高校生の獲得合戦を繰り広げている。

高校時代、5000mを14分台で走れば、間違いなく関東の大学から勧誘される。選手側の「売り手市場」。大学側としては授業料、寮費、あるいは栄養費など様々な経済的な優遇案を選手たちに提示し、勧誘合戦を行っている。

全額免除なのか？それとも一部免除か、奨学金の形で給付するのか？

一般的に、知名度の高い大学は経済的なメリットをあまり提示しない。一方、平成に入ってから強化に取り組むようになった新興勢力の大学は、経済的な優遇を前面に出して選手を勧誘しているようだ。

関東集中が生む悲哀

「学生日本一」を決める第44回全日本大学駅伝対校選手権で、駒大が2連覇を飾った。取材で痛感したのは、関東勢の圧倒的優位という格差の構図だ。

2000年以降、関東勢以外の1けた順位は06年9位と08年7位の第一工大（九州）だけ。優勝は1986年の京産大（関西）までさかのぼる。地方の取材で必ず耳にしたのが、「関東には太刀打ちできるわけがない」。だから、現実的な目標は昨年の順位を上回ること。比較的力のある関西勢でも、「何とか10位以内」だ。

この状況を生む要因は、今もなお、人気が過熱する関東の大学だけで争う箱根駅伝にある。多くの高校生が正月の風物詩とも言われる箱根にあこがれ、関東の大学を希望する。大学側は箱根で勝てば学生集めの大きなPRになるため、好ランナー獲得を狙い、奨学金などの経済的援助も武器に勧誘合戦を繰り広げる。結果、地方との間に埋めがたい実力差が生じていく。ある指導者は、「箱根の魅力には勝てない。さらに金を積まれてはどうしようもない。関東に根こそぎ持っていかれる状況を変えるのは無理だ」と断言する。

一方、関東に進んでも、箱根はおろか、全日本も一度も走れない選手は多い。悔いなく過ごせればいい。しかし、競争の激しさに早い段階で腐ってしまい、脱落。「地元に残っていたら……」と悔いる選手の話を幾つか聞いた。それぞれ、地元の大学なら十分活躍できるタイムを持っていた。

地方で輝けたであろう選手が関東で埋もれる。勧誘合戦にのみ込まれたケースだろう。格差の構図の裏には、こんな悲哀もある。

（厳本新太郎）

箱根駅伝フィーバー？

第80回大会広報車

第80回大会規制予告車

第80回大会復路スタート 付近
東京箱根間往復大学駅伝競走

日テレ
テレビ中継車
第80回大会6区山下り

POLICE
第80回大会復路白バイ隊集合

2011年スタート 付近応援風景

第90回大会スタート地点　神奈川大学応援団

2011年スタート付近応援風景

東京箱根間往復大学
第88回大会スタート

テレビオートバイ
第88回大会

第88回大会箱根町ゴール付近
箱根
駅伝

第88回大会グッズ売り場

第88回大会ゴール付近

10月中旬の土曜日に陸上自衛隊立川駐屯地→立川市街地→国営昭和記念公園の全長20kmのコースで行われる予選会は『★SAPPOROスポーツスペシャル箱根駅伝予選会』として、本選同様にサッポロビールが筆頭スポンサーとなって放送される。

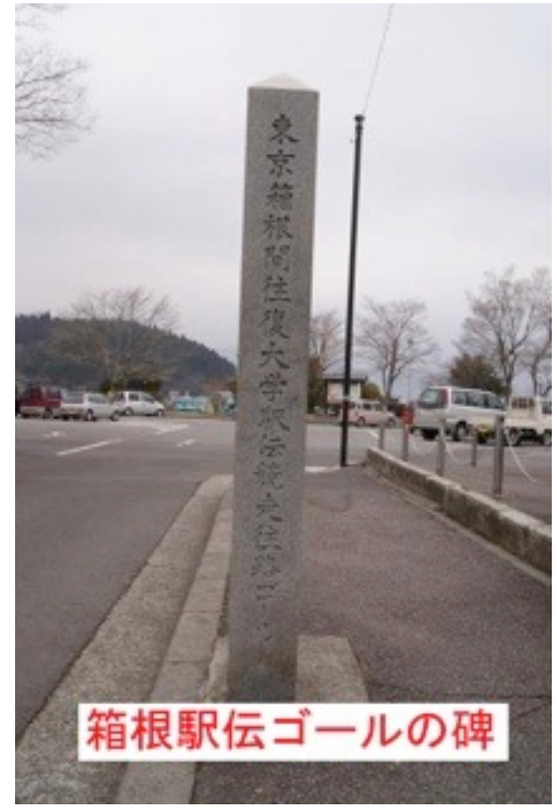
予選会中継

日テレG+では9:15-12:00に生放送される。日本テレビでは当日午後に90分枠でダイジェスト版が放送される。

第89回 東京箱根間往復大学駅伝競走 応援キャンペーン!
クイズに答えて
オリジナルアイテムをもらおう!
箱根駅伝 B賞
100名様 非売品
ミズノ社製 箱根駅伝
アスリートタオル
ゴール後に選手の肩に掛けられるタオルのレプリカ。気分はアスリート!
W チャンス!
各賞の抽選にもれた方の中から、さらに抽選で 10,000名様 に
ミズノ社製
箱根駅伝
ハンドタオル
をプレゼント!
BACK
防寒対策の必需品。応援はもちろん ジョギングにも最適!
箱根駅伝 A賞
100名様 非売品
ミズノ社製 箱根駅伝
ベンチコート
THE 89th HAKONE EKIDEN 2013
箱根駅伝
MIZUNO

読売新聞も

第89回
東京箱根間往復大学駅伝競走
応援キャンペーン!
クイズに答えてもらおう!
箱根駅伝
第89回 東京箱根間往復大学駅伝競走
2013 1.2-1.3
AM8:00 START
箱根路を駆ける熱き戦い!
応募方法は3通りあります
① はがき 専用応募はがき、または郵便はがきにクイズの答えと必要事項をご記入の上応募してください。
② インターネット 下記のURLより応募してください。
http://cp.yomiuri-info.jp/h48/
③ 携帯電話
2次元コード読み取り機能を搭載している携帯電話で読み取り、アクセスして応募してください。
(環境により正確に読み取れない場合があります)
※ネットでの応募は、締切日の24時まで。
応募締切日 平成24年11月30日金 消印有効
ご注意
いずれかの方法で一世帯1回のみの応募とさせていただきます。
当選者の発表は、賞品のお届けをもってかえさせていただきます。
賞品は最寄りのYC(読売センター)からお届けします。
当選に関する個別のお問い合わせにはお答えいたしかねます。ご了承ください。
yfcって何? http://yfc.yomiuri-johkai.co.jp/
お問い合わせ
yfcキャンペーン事務局
TEL.03-5212-1317
(平日10時より17時まで)



箱根町の駅伝関連物:町興し？

箱根駅伝往路優勝杯

出場資格

競技者は次の参加資格を満たしている必要がある

1）競技者の所属校が関東学連加盟校で競技者は当該年度の登録を完了していること(内規第4条)。

2）所属する加盟校が関東学連から処分を受けていないこと(内規第5条)。

3）本人が関東学連の資格審査委員会によって処分を受けていないこと(内規第6条)。

4）出場申込回数が4回(予選会のみ出場の場合も回数に含む)を越えないこと(内規第7条)。

箱根駅伝にはシード校と予選会を通過した大学の計19校と、このほかに関東学連選抜チームの出場が認められている(内規第12条)。

参加チーム数

～31回(1955年):参加希望校の内、関東学連が承認したすべてのチーム　→多くても15チームだった

第32回(1956年):出場校15チームとし、出場全チームを当該同年度秋季の予選会にて選考

～第45回(1957～1969年):以下の2種類の方法で選んだ計15チーム

☆前年度の総合順位10位までのシード校

★他の出場校は秋季に行われる予選会の上位5チーム

第40回(1964年)の記念大会:15校のほかに特例として関西(立命館大学)と九州(福岡大学)から各１校を招待

～第78回(2002年):シード校を９校、予選会から６校。

第79回(2003年)～:学連選抜を含めて20校。シード校は10校。

　ただし第50，60，70回記念大会は20校。

シード校

本競技会で10位までに入った大学はシード校として次回の本競技会出場権を取得する(内規第13条1項)。つまり、前回の本競技会で総合10位以内に入賞していれば、本競技会出場権を取得し予選会は免除される(シード権、予選免除権)。なお、シード校の参加は希望制であるが、不参加チームはいまだ発生していない。

関東学連選抜チームが10位以内に入った場合は、シード校は9校となり次回の予選会では10校を選抜する(内規第13条2項)。なお、この場合は次年度の出雲全日本大学選抜駅伝競走への推薦校も9校となる(内規第13条2項)。

予選会

20kmのコースを各校12名の走者が走って行われる。予選会では本競技会の出場校の数からシード校を除いた残りの出場校数を、まず、タイムにより６校選び(前回の本競技会において関東学連選抜チームが10位以内に入った場合には7校選び)、残り3校はその年の関東インカレの成績に基づくポイント制との併用により選ぶ(内規第13条2項)。駅伝だけではなく陸上競技部全体としての取組が成績に影響する仕組みである。

具体的には各校上位10人の合計タイムにより、まず上位６校が予選通過となり、残り３校については関東学生陸上競技対校選手権大会の成績に基づくポイント(インカレポイント)による減算タイムを併用して順位を決定する。

予選会への出場資格

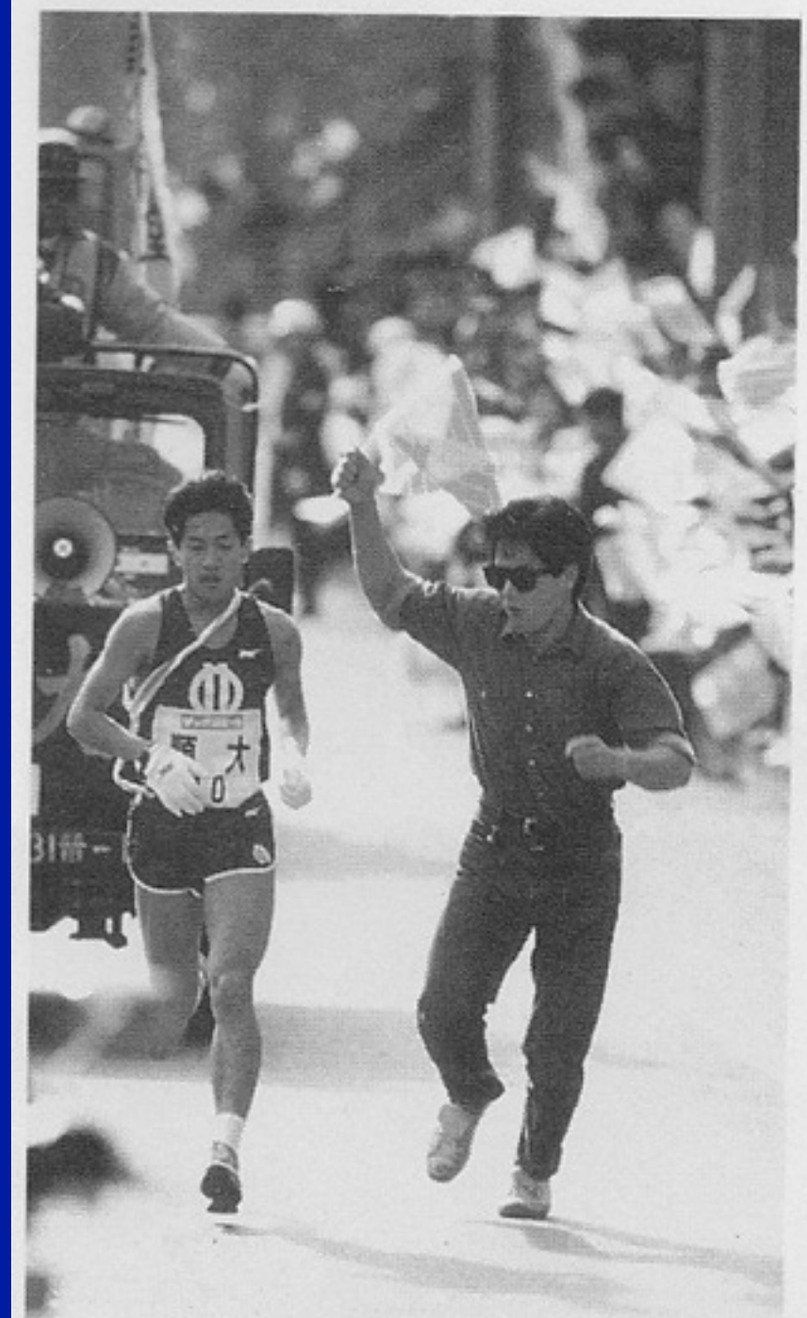
その年の1月から予選会申込期日前日までの公認記録で、10000m:34分00秒00か5000m:16分30秒00のどちらかもしくは両方を突破した選手を、補欠も含めて10人以上揃えなければならない。

予選会に出るということは、本大会の約２か月半前に一度チームや個人としての体調やコンディションのピークを持ってくる必要がある。そのため、チームとして、年間を通しての調整面で予選突破が不要なシード校に比べてより多くの課題に取り組まなくてはいけない。∴シード権争いが熾烈なのだ

大手町FINISH
東京箱根間往復大学駅伝競走
主催 関東学生陸上競技連盟 共催 読売新聞社 後援 報知新聞社／日本テレビ放送網
1:13:18
1位との差 13:27
1 W 早稲田大 ---
2 東洋大 0:21
3 駒澤大 4:02
4 東海大 8:21
5 明治大 8:33
6 中央大 11:33
7 拓殖大 11:37
2011年のシード権争い
城西大学が３秒差で涙
カメラ
62

熾烈なシード権争い

▼順大のアンカーは前回逆転優勝の立役者・工藤康弘。スタートしてすぐ，興奮してとび出した男に接触してヒザをつくハプニングが起こったが，動揺することなく快調に走りつづけ，2年連続の逆転優勝をなしとげた。



アクシデント

ブレーキ・棄権

▼箱根のゴール前で意識もうろうとなり，監督の激励を受け，よろめきながら一歩一歩ゴールに向かう農大の国府田克則。これが箱根駅伝だ。

第63回

第58回

第88回大会給水風景

途中棄権

回数	（年）	大学名区間
第25回	（1949）	神奈川師範（現・横浜国大）３区
第34回	（1958）	横浜市大９区
第52回	（1976）	青学大10区
第71回	（1995）	順大10区
第72回	（1996）	山梨学院大４区、神奈川大４区
第77回	（2001）	東海大２区
第78回	（2002）	法大２区
第84回	（2008）	順大５区、大東大９区、東海大10区
第85回	（2009）	城西大８区
第89回	（2013）	城西大５区、中央大５区

20校×10名＝200名の出場選手が各々20Ｋｍ前後走る。だから、毎年１人位棄権者が出てもおかしくない。しかし、 90回ほどの歴史の中、棄権は14例で約0.1％程度。ところが、その半数はここ10年に集中。高速化が影響か？

棄権する状況は悲惨で、選手が夢遊病者のようになってしまい、監督が制止することが多い。

これをテレビはクローズアップで放送する。だから余計に印象に残るのでは。他の駅伝、マラソンでは殆ど、限界を感じた選手自身が自主的に止める。自分だけではなく大学関係者全てに迷惑がかかるため、責任感を感じた選手は限界を超えて頑張ってしまうからでは。

また、マスコミは殊更美談のように、翌年以降も繰り返し繰り返し放映する。たとえ異変を感じても選手は自主的には止まらない。

順大の元監督沢木啓祐談

「棄権の多くは”アキレス腱痛”、”疲労骨折”等であり、過度な練習が原因である」→脱水もある

箱根に出たい→練習過多→肉体にダメージを持ったまま出場→異変を感じても頑張りすぎ→故障発生＝棄権

箱根で故障せずとも、卒業後故障に泣かされて実力を発揮出来ない箱根のスーパースターが近年実に多い。

男子マラソンの近年の不振は箱根駅伝で(肉体的、精神的に)燃え尽きる選手が多いからとの指摘もある。

夏の高校野球優勝投手は大成しないジンクスに通じるもの有り。→箱根駅伝燃え尽き症候群

「駅伝がマラソンをダメにした」の著者である生島淳は「箱根は甲子園になってしまったのだな、と思う」と書いている。一区間が20km以上ある。山を登って降りる。ブレーキもあるしトラブルも多い。学生はたすきをつなぐとぐったり倒れ込む。分かっているが胸が熱くなる。学生スポーツはだから良い。でもこれは甲子園のイメージそのものではないか。

箱根駅伝の弊害

留学生

テレビの全国生中継開始とともに登場してきた山梨学院大学は、出場3年目にしてアフリカ人留学生の選手を呼び入れた。主催者側の判断により箱根駅伝を外国人選手が走ることができるようになり、その圧倒的な走りで新風を巻き起こした。

1980年代後半からレース全体のスピードアップが進んだことにも、留学生の登場が大きく影響している。第82回(2006年)からは、「内規」第9条を変更し、16名のエントリー時点では2人まで登録可能だが、実際に本番で走ることができるのは1人に限ると決められた。また、2005年秋の予選会では、エントリーは2人、出場は1人となっている。2006年以降本番で留学生を2名エントリーしたのは山梨学院大学(第85回 2009年)、日本大学(第86回 2010年)、拓殖大学(第87回 2011年・第88回 2012年)。いずれも、実際に本番で走ったのは1名のみで、もう1名は補欠選手となった。

駅伝偏重とインカレポイント

大学経営策の一環として、箱根駅伝にPR効果を期待する大学が増えている。そのため「陸上競技部」と称しながら実際には長距離部門を中心に運営している大学や、挙句の果てには「駅伝部」を称する大学も見られる。予選会に出場する大学の中には予選会に全力を傾けるため、インカレへの出場に消極的になりがちな大学もある。予選会の成績に関東インカレのポイントを導入した背景には、上記の「駅伝偏重」対策が大きく影響している。主催者側も箱根駅伝を「世界に通じる陸上競技者の育成」としており、その原点に立ち返る意味で導入した。

インカレポイント

関東学連側は、見直し論については当初の予定どおり検討。第84回(2008年)の予選会よりポイント方式が変更されたものの廃止には否定的な見方を示している。

インカレポイントについては、第86回(2010年)終了時から廃止・継続又は新制度の導入などの議論を重ねた結果、2012年6月6日に行われた関東学連代表委員総会において、第89回(2013年)は現行どおり実施、第90回(2014年)は不採用。第91回(2015年)以降は、廃止・継続のいずれの可能性も残し、継続して検討を重ねることが決まった。

駅伝重視によるトラック軽視傾向もある

そのため

現代マラソンの高速化について行けない

最後に

横浜市立大学と箱根駅伝

出場したことあるか？

横浜市立大学60年史にも記載無し

出場・・・6回、最高順位・・・総合13位(往11位/復13位)

過去に出場した国公立大学

筑波大：62回出場　優勝1回(第1回大会)、
最後に出場した大会・・・第70回大会(第20位)

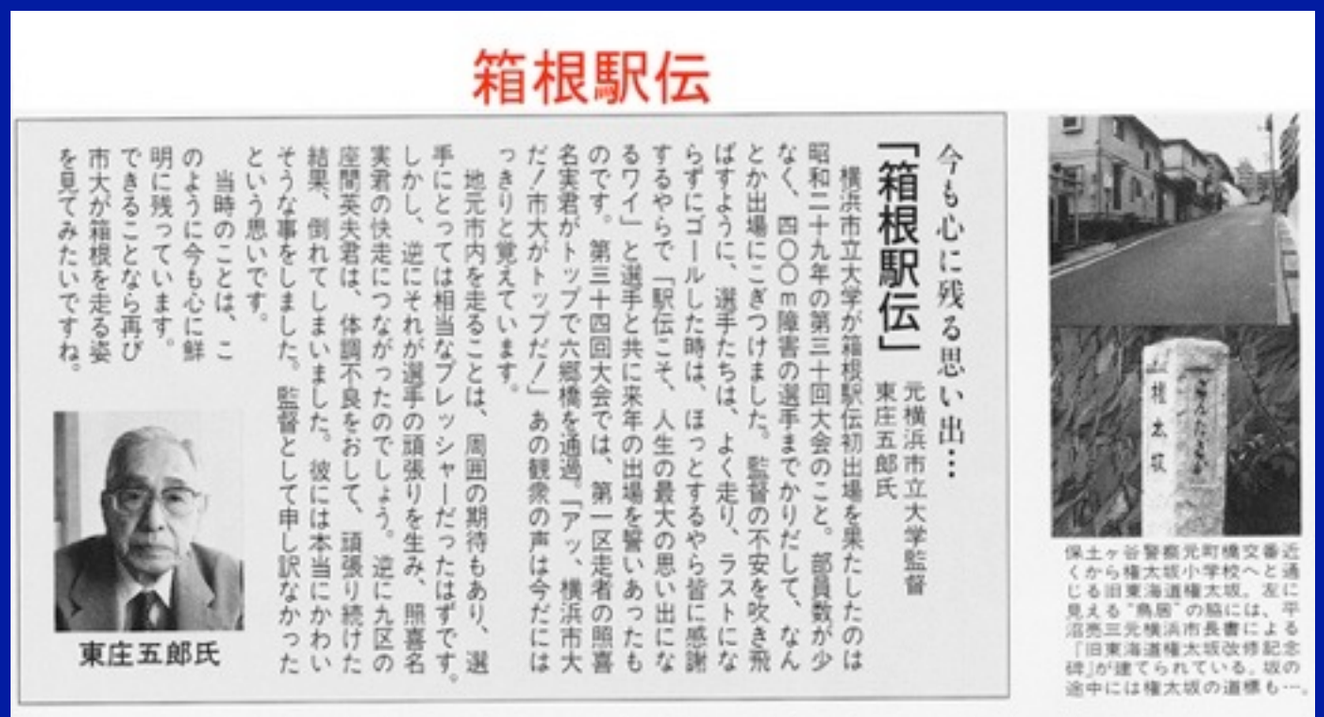
横国大；10回出場、最後に出場した大会・・・第32回大会(第15位)

東学大：８回出場、最後に出場した大会・・・第37回大会(第13位)

防衛大：２回出場、最後に出場した大会・・・第39回大会(第15位)

東京大：１回出場、最後に出場した大会・・・第60回大会(第17位)

埼玉大：１回出場、最後に出場した大会・・・第35回大会(第14位)



箱根駅伝

今も心に残る思い出…

「箱根駅伝」　元横浜市立大学監督　東庄五郎氏

横浜市立大学が箱根駅伝初出場を果たしたのは昭和二十九年の第三十回大会のこと。部員数が少なく、四〇〇m障害の選手までかりだして、なんとか出場にこぎつけました。監督の不安を吹き飛ばすように、選手たちは、よく走り、ラストにならずにゴールした時は、ほっとするやら皆に感謝するやらで「駅伝こそ、人生の最大の思い出になるワイ」と選手と共に来年の出場を誓いあったものです。第三十四回大会では、第一区走者の昭喜名実君がトップで六郷橋を通過。「アッ、横浜市大だ！市大がトップだ！」あの観衆の声は今だにはっきりと覚えています。

地元市内を走ることは、周囲の期待もあり、選手にとっては相当なプレッシャーだったはずです。しかし、逆にそれが選手の頭張りを生み、照喜名実君の快走につながったのでしょう。逆に九区の座間英夫君は、体調不良をおして、頑張り続けた結果、倒れてしまいました。監督として申し訳なかったという思いです。

当時のことは、このように今も心に鮮明に残っています。できることなら再び市大が箱根を走る姿を見てみたいですね。

東庄五郎氏

保土ヶ谷警察元町橋交番近くから権太坂小学校へと通じる旧東海道権太坂。左に見える"鳥居"の脇には、平沼亮三元横浜市長書による「旧東海道権太坂改修記念碑」が建てられている。坂の途中には権太坂の道標も…。

横浜市立大学の箱根駅伝出場履歴

1954年(第30回大会)：14位・14時間18分06秒。
優勝：早稲田12時間21分10秒、神大11位、横国13位。
1955年(第31回大会)：13位・13時間51分00秒。
優勝：中大12時間08分40秒、神大11位、横国14位。
1956年(第32回大会)：13位・13時間35分36秒。
優勝：中大12時間04分49秒、神大12位、横国15位。
1957年(第33回大会)：13位・13時間54分08秒。
優勝：日大12時間14分04秒、神大15位。
1958年(第34回大会)：第9区のランナーが倒れ棄権。
優勝：日大12時間02分17秒、神大14位。

▼第32回箱根駅伝予選会兼第10回関東学生10マイル（昭30）

11.27　代田橋―井の頭公園往復

〈団体〉

①中央大学	51分45秒
②日本大学	53分 3 秒
③東京教育大学	53分43秒
④日本体育大学	54分58秒 5
⑤早稲田大学	55分16秒 7
⑥立教大学	55分26秒 5
⑦専修大学	55分33秒 7
⑧東洋大学	55分46秒 2
⑨法政大学	55分55秒 4
⑩東京農業大学	58分 2 秒 5

⑪神奈川大学，⑫東京学芸大学，⑬横浜市立大学，⑭横浜国立大学，⑮明治大学

（注）19校参加，上位15位までが，本大会参加資格を獲得した。

〈個人〉（選手権）

①佐藤光信（中大）	50分 8 秒
②山内二郎（法大）	51分10秒
③布上正之（中大）	51分11秒
④[illegible]（[illegible]）	52分[illegible]秒
⑨服部昌司（立大）	52分15秒
⑩加藤正之助（早大）	52分33秒

（注）280人が参加した。

▼第34回箱根駅伝予選会兼第12回関東学生10マイル（昭32）

11.24　代田橋―井の頭公園往復

〈団体〉（予選）

①国士舘大学	56分35秒 3
②順天堂大学	57分41秒 8
③東京学芸大学	59分12秒 8
④横浜市立大学	59分57秒 5
⑤神奈川大学	60分19秒 0

〈個人〉（選手権）

①渡辺和己（中大）	50分31秒
②林田積之助（東教大）	50分41秒
③須田柳治（順大）	51分10秒
④服部昌司（立大）	51分29秒
⑤加藤正之助（早大）	51分31秒
⑥中山昂（早大）	51分37秒

⑦須貝富雄（東教大），⑧田中清司（早大），⑨今西正敏（東教大），⑩長田正幸（東教大）

夢が実現／　初参加

横市大　井上　晃

▲30回大会の５区小田原市内から箱根に向かう横市大の井上晃（井上晃氏提供）

▶31回大会の１区六郷橋を力走する横市大の照喜名実。区間９位の健闘であった。

地元の１区を４回走って

横市大　照喜名　実

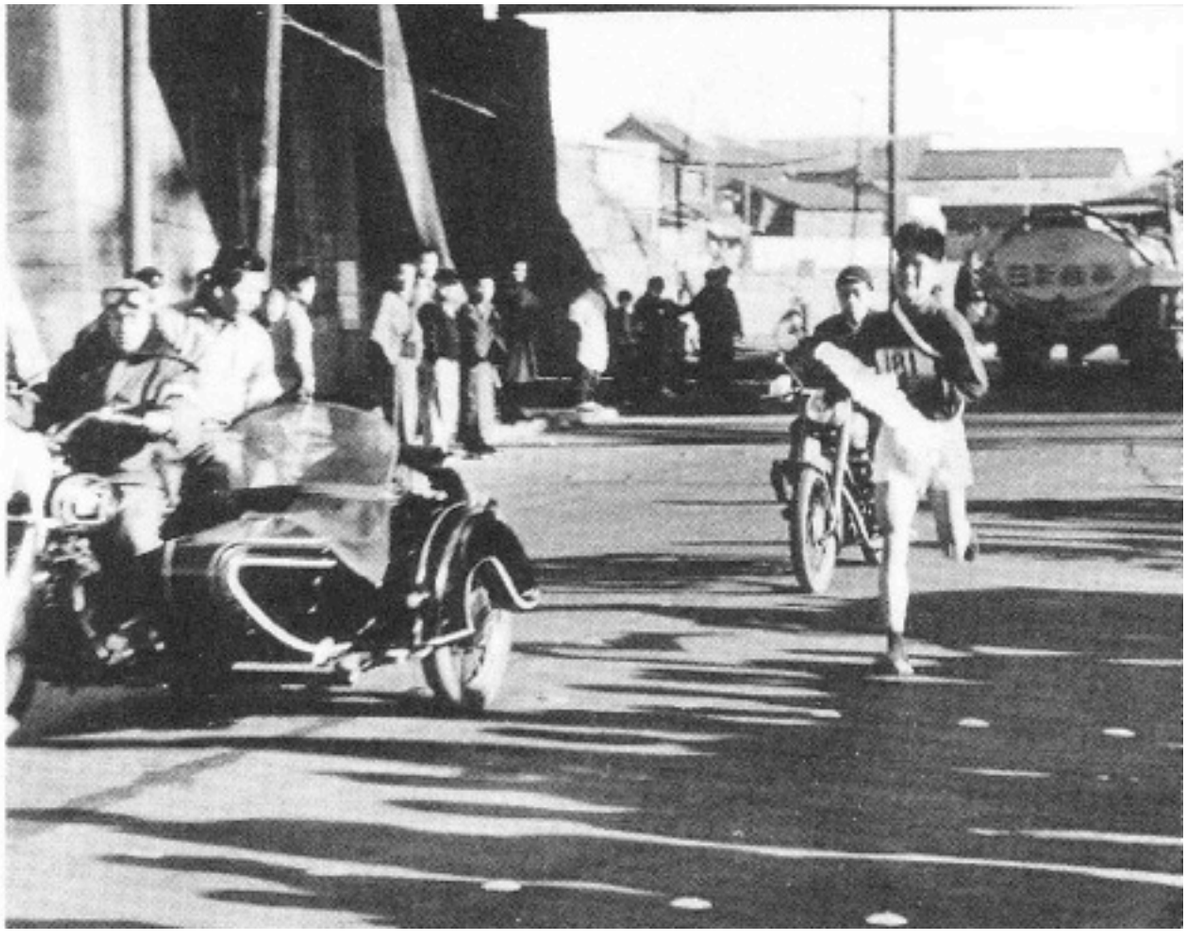
「スタートはお前」。一年の時は初めから決まっていた。強豪各校の速いスピードについて行かなければならず，東京八重洲口の宿舎では眠られぬ一夜を過ごした。目標は１ケタ，の９位でホッとする。

９位，６位，３位，１位。「同じ区間を走れたら，この順位が，４年間の目標」と，心に決めた。宿での不

六郷橋はトップで通過した。見知った顔が沿道に出ており，いずれも驚いている。「実さんだ，実さんだ」，「頑張れ」。沿道の方が興奮し，熱狂している。八丁畷では高校の恩師一家が例年待っているが，大騒ぎしているのが，手にとるように見えた。そこもトップで通過する。「後ろは100ｍだ。もっと離せ！」と恩師がゲキを飛ばす。結局，鶴見の中継所では，約20秒差で逆転されてしまったが，少しも悔いは残らなかった。

１区を走った後，元気いっぱいで箱根の山登り，山下りの伴走者を務め，全力を出し切った２日間の駅伝であった。大きな舞台に出してくれた監督，コーチ，先輩，チームメート，関係者の好意に支えられた４年間であり，悔いのない青春のイベントであったと，今でも感謝している。

〈第31，32，33，34回出場〉



▶横市大の照喜名実は前回に引きつづき１区担当、川崎の八丁畷ガード下を力走する。区間７位の大健闘。（照喜名実氏提供）

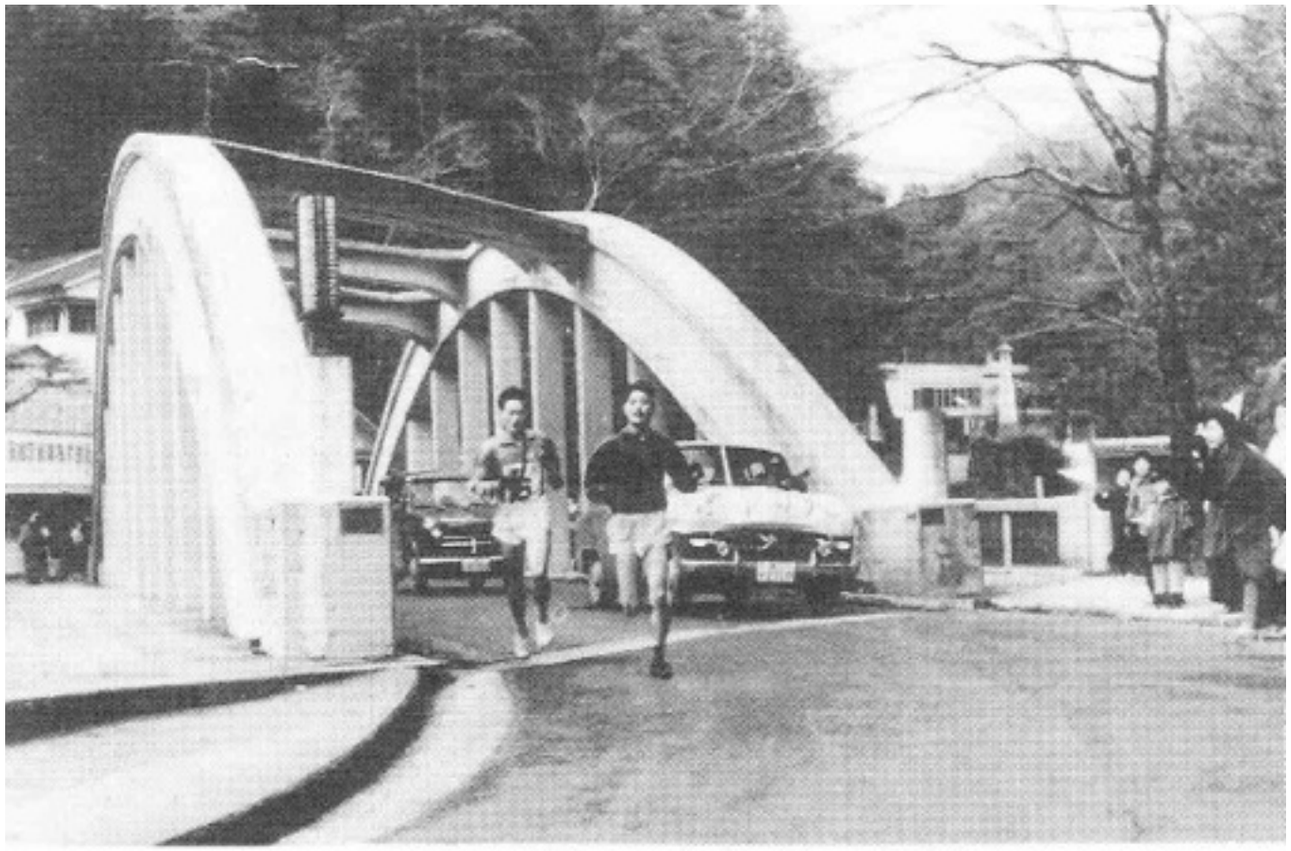
と思われた。そして，内川は小田原中継点から1000ｍの国鉄ガード付近で早くもトップ。

ところである。この日を期して調整に努めてきた谷敷は，完全に復調していたのだ。３km付近で逆に内川を抜き去ると，そのまま快走して，

第34回大会

(昭和33年1月2、3日)1958年

▼六郷橋手前の死闘。日大の愛敬実にけんめいに食い下がる横市大の照喜名実。鶴見中継所では18秒差。



▲横市大の6区山下り、湯本を力走する露木富と伴走の照喜名実。

◀日大の愛敬を抜いてトップに立った横市大1区の照喜名実。34回大会。(照喜名実氏提供)。

昭和38年(1963年)11月9日21時40分頃に日本国有鉄道・東海道本線鶴見駅 - 新子安駅間の滝坂不動踏切(神奈川県横浜市鶴見区)付近で発生した列車脱線多重衝突事故。この事故で、第４代学長三枝博音が死去。学内が沈痛な空気に。

「技術は生活に奉仕し，知恵が命令を発する」

久々の箱根駅伝出場という明るいニュース。
1964年(第40回大会)：17大学中17位(記念大会で立命館･福岡大が参加)。13時間04分11秒。
優勝：中大11時間33分34秒。神大・横国参加できず。

これを最後に、横浜市立大学は箱根駅伝から名前を消す。

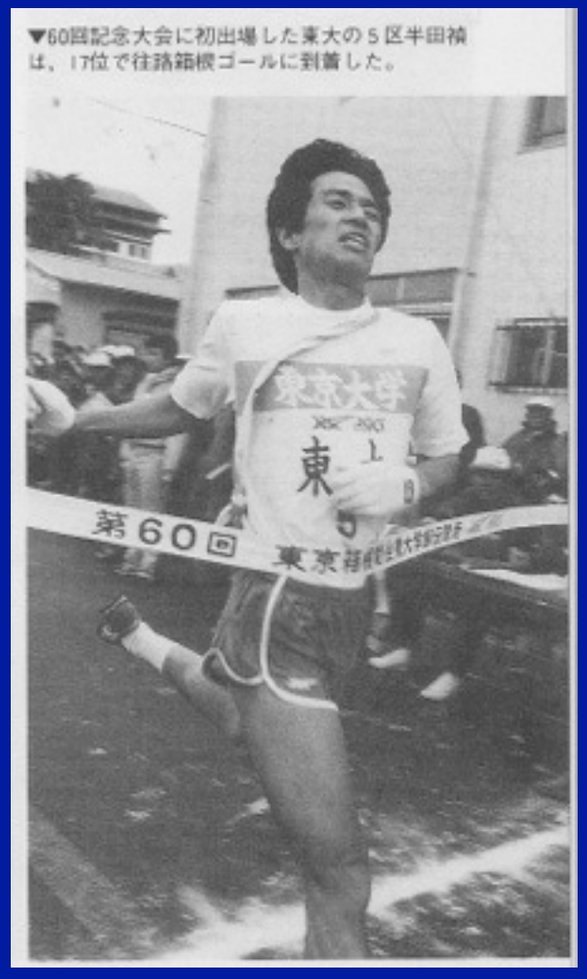
筑波大学の前身である東京教育大学などと共に国公立として参戦してきたその意義は大きい。
しかも横市大には教育学部や体育学部は無い。

箱根駅伝フィーバーで
本戦に名前が出なくなった大学

慶應義塾大学

筑波大学

立教大学



▼60回記念大会に初出場した東大の5区半田禎は，17位で往路箱根ゴールに到着した。

東京箱根間往復大学駅伝競走・歴代順位一覧表

	第1回(大手)	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回(大手)	第8回(報知)	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回	第20回	第21回(報知)	第22回(報知)	第23回(報知)	第24回	第25回	第26回
東京高師	1	2	2	5	2	4			5	6																
明治大学	2	1	3	4	1	1	2	3	1	1	2	5	9	4	6	5	8	3	失格				1	3	1	3
早稲田大学	3	3	1	1	3	2		1	2	2	1	1	3	1	1	2	2	2				7	4	7	2	2
慶応大学	4	4	6	6	5	5	4		7	8	4	2	1	2	3	3	4	9				2	3	5		6
東京農業大学		5	5	3	4	6	6		4	4	8	7		9	9	10	13	12	8	6	8	9				11
法政大学		6	7	7	6	10	5	4	6	5	5	3	4	7	4	8	5	8	11		6	3	10	6	6	8
中央大学		7	4	2		3	1	2	8	7	3	6	5	5	5	4	3	6	5	3	3	4	2	1	4	1
東大農学部実科			8	8	7	9	7																			
日本歯科			9		8	8	3		10	9	7	10	7	8	8	7	9	10	6	7	10					
日本大学			10	9	9	7		5	3	3	9	4	2	3	2	1	1	1	1	2	1	1	6	2		4
関西大学									9			8	8													
文理科大学											8	9	6	6	7	9	6	7	3	4	2	5	7		5	
東洋大学														10	13	11	11	11	7	8	5			10	10	12
拓殖大学														11	12	12	10	14	9	9	9	10				
専修大学															10	6	7	5	2	1	4	8	5	4	8	9
立教大学															11	13	12	4	4	5		6		11	9	7
横浜専門																	14	13	10	10	7				11	
青山学院大学																						11				
神奈川師範																							8	9	途愛	
東京体育専門																							9	8	3	
紅陵大学																								12		
日本体育専門																									7	
東京教育大学																										5
日本体育大学																										10
横浜国立大学																										13
神奈川大学																										14
成蹊大学																										
● 横浜市立大学																										
東京学芸大学																										
国士舘大学																										
順天堂大学																										
埼玉大学																										
防衛大学																										
立命館大学																										
福岡大学																										
亜細亜大学																										
駒沢大学																										
大東文化大学																										
東海大学																										
筑波大学																										
東京大学																										
山梨学院大学																										

	第27回	第28回	第29回	第30回	第31回	第32回	第33回	第34回	第35回	第36回	第37回	第38回	第39回	第40回	第41回	第42回	第43回	第44回	第45回	第46回	第47回	第48回	第49回	第50回	第51回	第52回	第53回	第54回	第55回	第56回	第57回	第58回	第59回	第60回	第61回	第62回	第63回	第64回	第65回
東京高師																																							
明治大学	2	4	4	5		14	14			10	5	2	2	9	8	10	15		15			15		17										18	15	15	14	10	11
早稲田大学	3	1	2	1	3	6	5	6	6	5	7	12	10	7	6	7	10	10	14		13		15	16	15		13	6	4	3	5	5	2	1	1	2	8	9	13
慶応大学												14	13	10		15					15			19										20					
東京農業大学	失格	7	8	12	9	10	9	11	10	12	9	7	12	15	13							11	8	4	4	3	2	4	7	6	4	15	9	7	7	5	13	6	9
法政大学	5	8	12	4	5	4	6	5	5	8	8	8	7	8	12	9	8	9	8	13	14			15		14	14	8	14	14	14		13	16					15
中央大学	1	2	1	3	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	2	4	4	5	11	9	8	6	6	7	6	4	8	7	13	15	11	8	10	11	6	8	3	5	3
東大農学部実科																																							
日本歯科																																							
日本大学	4	3	3	2	2	2	1	1	2	2	2	5	3	2	1	2	1	1	2	3	3	2	3	1	5	6	5	5	5	5	7	3	4	5	4	12	4	4	5
関西大学																																							
文理科大学																																							
東洋大学	10	12	9	6	7	9	10	8	8	3	6	9	11	4	9	6	6	4	5	7	6	8	11	8	8	10	9	9	6	7	10	6	7	8	9	13	10	13	14
拓殖大学			14	15	15															15		14		18			15	14	8	13	13	14		15					
専修大学		5	6	9	6	8	8	9	9	6	3	4	9	10	7	8	7	13	6	6	10	7	10	11	13	12	10	11	9	9	9	9	14	10	10	10	7	14	
立教大学	6	6	7	7	8	7	3	7	4	7	14	6	14	14	11	11		11																					
横浜専門																																							
青山学院大学															14	13	14	7	9	12	12	13	13	14	14	途愛													
神奈川師範																																							
東京体育専門																																							
紅陵大学		13																																					
日本体育専門																																							
東京教育大学			5	8	4	3	4	3	3	4	12	13	8	12	10	12	9	12	12	11	11	12	12	13															
日本体育大学	8	9	13	19	13	5	7	4	7	9	4	3	4	6	5	3	5	2	1	1	1	1	1	5	3	2	1	1	2	1	2	2	1	2	3	6	2	3	2
横浜国立大学	9	11	11	13	14	15																																	
神奈川大学	7	10	10	11	11	12	15	14	15	15		15			15	14	12			14				20															
成蹊大学		14																																					
● 横浜市立大学				14	13	13	13	途愛						17																									
東京学芸大学					12	11	11	13	13	14	13																							19					
国士舘大学							12	12	11	11	11	10	6	3	4	5	3	6	4	4	4	5	5	6	7	8	12	12	10	12	13	10	11	13	12	9	11	7	12
順天堂大学								10	12	13	13	11	5	5	3	1	2	3	3	2	2	4	4	3	2	5	4	2	1	2	1	1	3	3	2	1	1	1	1
埼玉大学									14																														
防衛大学											15		15																										
立命館大学														11																									
福岡大学														13																									
亜細亜大学																11	8	10	8	5	10	7	10	12	9	11		15			12	13	14	14	14				
駒沢大学																13	14	13	10	9	9	9	12	9	7	7	13	12	11	8	13	12	12	11	4	12	12	6	
大東文化大学																	15	7	5	7	3	2	2	1	1	3	3	3	4	3	4	6	4	5	3	5	2	4	
東海大学																						14	9	10	13	6	10	11	10	12	11	5	6	13	7	6	8	8	
筑波大学																								11	11		15		8	6	7	8	9	8	11	9	15	13	
東京大学																																		17					
山梨学院大学																																				15	11	7	